

文学部

I	教育の水準	教育 1-2
II	質の向上度	教育 1-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学士教育課程の階層や卒業時に必要とされる資質や能力の体系的な方針について、コースツリー、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとして可視化し、学生に明示している。
- 教員の教育力と職員の専門性向上のため、FD 研修会を実施しているほか、教育プログラムの質保証・質向上のための工夫として、自己評価と今後の展望を含む教員研究活動報告書や授業評価アンケート、卒業時アンケートを継続的に実施している。
- 図書館職員に、図書館機構や文学研究科図書館が開催する講習会、研修会、勉強会への積極的な参加を奨励し、図書館の資料や電子リソースを十分活用できるようにしている。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成 24 年度から、文学研究科と経済学研究科を中心に学内 9 部局の連携によるアジア研究教育ユニットを設置し、国際連携教育の推進に取り組んでおり、関連する事業等により海外で語学研修や調査を実施した学生は、平成 27 年度までに延べ 56 名となっている。
- 学生の主体的な学習のため、平成 27 年度からシラバスに「授業外学習（予習・復習）等」の項目を設けて授業外学習について指針を示しているほか、学部独自の取組である学生支援プロジェクトにおいて、OB・OG による学生相談室プロジェクトと外国語支援プロジェクトを実施し、授業以外において学生の支援を行っている。

以上の状況等及び文学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）に実施した卒業時アンケート結果では、学修の満足度について平均87.2%が肯定的な回答をしている。
- 第2期中期目標期間において、標準修業年限内の卒業率は平均73.7%、卒業生の在籍年数は平均4.4年となっている。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間において、卒業生のうち就職者は平均57.1%、進学者は平均30.2%となっている。
- 卒業生の就職先へのアンケートを、平成26年度に官公庁に対して、平成27年度に企業に対して実施しており、卒業生の能力について、5段階評価で「基礎知識」は官公庁で4.5、企業で4.8、「教養」は官公庁で4.4、企業で4.9、「総合評価」は官公庁で3.9、企業で4.6となっている。

以上の状況等及び文学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 24 年度から、文学研究科と経済学研究科を中心に学内 9 部局の連携によるアジア研究教育ユニットを設置し、国際連携教育の推進に取り組んでおり、関連する事業等により海外で語学研修や調査を実施した学生は、平成 27 年度までに延べ 56 名となっている。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第 2 期中期目標期間に実施した卒業時アンケート結果では、学修の満足度について平均 87.2%が肯定的な回答をしている。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。